

【続報】台風14号の接近に伴う注意喚起

本通信10月6日号でもお伝えした台風14号は強い勢力へ発達し、10月11日(日)未明にかけて四国や本州にかなり接近する進路が予想されております。本号では、被害の発生・拡大防止にむけた注意喚起と事前対策についてお伝えいたします。

1. 台風14号の進路予測

10月9日(金)10時45分の気象庁予報部発表によると、強い台風14号は、足摺岬の南をゆっくりした速さ(10km/h以下)で北東へ進んでおり、中心の気圧は970hpa、中心付近の最大風速は35m、最大瞬間風速は50mとなっています。

今後、台風14号は強い勢力を維持したまま次第に東寄りに進み、10月10日(土)にかけて西日本に接近、暴風域を伴ったまま、10日(土)から11日(日)にかけて東日本へ接近または上陸するおそれがあります。

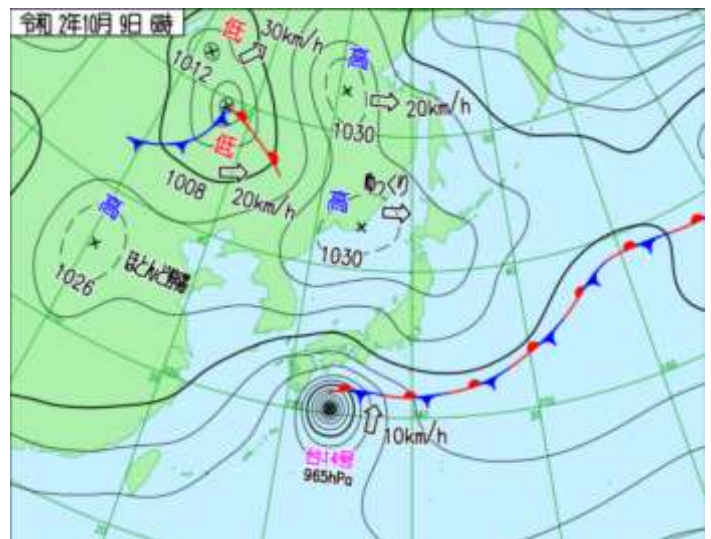


2. 台風14号の気象予想

10月9日(金)5時7分の気象庁予報部発表によれば、台風の通過に伴い、西日本では10日(土)にかけて、東日本太平洋側では11日(日)にかけて非常に強い風が吹き、西日本や東日本の太平洋側では猛烈なしけとなるところがある見込みです。

また、台風14号は、四国の南から、本州の東の沿岸を太平洋に向かって横断するような進路予測となっているため、日本の広い範囲で台風そのものの雨雲による大雨が見込まれています。

なお、予想天気図では秋雨前線が日本の南に停滞しています。台風が秋雨前線を刺激することにより、関東南部や伊豆半島などは、台風が接近する前から大雨となったところに台風が到達するおそれがあります。東海地方も総雨量が500ミリに迫る予想もでておりますので、土砂災害や河川の増水・氾濫、低地の浸水などに嚴重な警戒が必要です。



すでに九州の東沿岸や四国の南西部など、西日本では暴風警報が発表されています。十分にご注意頂くとともに、常に最新の気象情報をご確認いただき、早めの事前対策をお願いします。

3. 台風 14 号への注意喚起

現時点の予想では、10日(土)にかけて日本の広い範囲で20～45m/の瞬間最大風速が予想されています。25m/以上風が吹くと、ブロック塀が倒壊する、取付不完全な外装材がはがれて飛散するなどの被害が想定されます。暴風により通気口から雨が入り込むような事例もありますので、直前でもできる対策をご準備いただければと思います。

台風対策の基本は、風雨からの『遮断』と浸水に対する『高所避難』となります。**現場用点検チェックシート**を添付致しましたのでご活用下さい。

平均風速	10～15m/s	15～20m/s	20～25m/s	25～30m/s	30m/s～
予報用語	やや強い	強い風	非常に強い風(暴風)		猛烈な風
時速(約)	～50km/h	～70km/h	～90km/h	～110km/h	110km/h～
速さの目安	一般道の自動車	高速道路の自動車			
人	風に向かって歩きにくくなる、傘がさせない	風に向かって歩けなくなる、転倒する人もいる	しっかりと身体を確保しないと転倒する	立ってられない、屋外での行動は危険	
樹木、電柱	樹木全体が揺れる 電線が鳴る	小枝が折れる 電線が切れる			樹木が根こそぎ倒れ始める 電柱が倒れる
車の運転	道路の吹流しの角度、水平(10m/s)高速道路で乗用車が横風に流される感覚	高速道路では横風に流される感覚が大きくなり、通常で運転するのが困難	車の運転を続けるのは危険な状態		
建造物	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める	ビニールハウスが壊れ始める	シャッター(鋼製)が壊れ始める。風で飛ばされたもので窓ガラスが割れる	ブロック塀倒壊、取付け不完全な屋外外装材がはがれ飛散	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊



【出典】 気象庁 <https://www.jma.go.jp/jp/typh/>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントップクス バックナンバー